

最高裁判所長官

戸倉三郎(とくらさぶろう)
(昭和 29 年 8 月 11 日生)



略歴

昭和 55 年	一橋大学法学部卒業
昭和 55 年	司法修習生
昭和 57 年	判事補任官 その後、大阪地裁、札幌地裁、最高裁民事局、最高裁人事局、東京地裁において勤務
平成 4 年	東京地裁判事
平成 6 年	司法研修所教官
平成 10 年	広島地裁判事
平成 11 年	広島地裁判事部総括
平成 12 年	広島高裁事務局長
平成 16 年	最高裁人事局参事官
平成 16 年	最高裁事務総局審議官
平成 20 年	東京地裁判事部総括
平成 21 年	最高裁総務局長
平成 25 年	東京高裁判事
平成 25 年	さいたま地裁所長
平成 26 年	最高裁事務総長
平成 28 年	東京高裁長官
平成 29 年 3 月 14 日	最高裁判所判事
令和 4 年 6 月 24 日	最高裁判所長官

このたび最高裁判所長官に任命されました。就任に際しての私の思いについては、「就任談話（令和4年6月24日）」として述べたとおりです。5年余り前に最高裁判事に就任した際の気持ちを忘れず、裁判所が、より国民に身近で頼りがいのある存在となり、ひいては我が国の「法の支配」が一層強固なものになるよう、事件や課題に真摯に取り組んでいきたいと考えています。

好きな言葉

どんな場所でも、どんな仕事でも、黙々と自分の責任を全うする人こそ貴重だという「一隅を照らす」という言葉を大切にしています。これは、自分への戒めとともに、社会の中で、それぞれの持ち場で責任を果たしている人に対するリスペクトの気持ちを忘れないこともあります。

趣味

読書は好きで、文庫版、新書版の手軽な本を書店で目についたら買っておいて、時間をみつけて読んでいます。英国の歴史ものや紀行文は好きですが、そのほかの国の歴史や、貨幣、金融、科学など特定の分野に絞った歴史に関する本も読みます。若いころ読んだ「日本の歴史1～26」（中公文庫版）や松本清張の作品を読み返すこともあります。当然、当時とは違った感想を抱くのですが、成長したからなのか、感受性が鈍ったのか迷います（たぶん後者でしょう。）。子供の頃からの鉄道趣味は、昭和の鉄道車両に興味があり、鉄道博物館、碓氷峠鉄道文化むら、大井川鐵道など車両を保存している所に出かけたりしていました。健康維持を兼ねたウォーキングは習慣となっていますが、街歩きなども楽しんでいます。東海道歩きを何年も前に始めましたが、時間を見つけるのが難しくなった上に、新型コロナ禍も加わり、未だに終点に届きません。